



高校生が、大人たちや社会と「ネットワーク化を図る」ための支援プログラム



会場イメージ図



中澤代表のお話

「カタリバ」代表の中澤久美さんは、「スタッフのネットワークが大切なんです。企画段階や高校生と触れ合う中で、スタッフ自身も成長しているんです。それと同時に、高校生との話の中で、家庭教育の大切さを実感しており、親の問題を痛感しています。「カタリバ」での経験が、彼らが親になった時に生かされたいと思います。」と語ってくれました。

ポイント①

「親子でも生徒と教師でもない。高校生にとって、直接利害関係のない第三者」で、ちょっとだけ年上の（ここがミソ）大学生・専門学校生が語りかけたり、話し相手になる点

ポイント②

大学生・専門学校生が、ほんの数年前に経験した失敗例や後悔したことを直接話せる点

ポイント③

大人の先入観や価値観ではなく、同じ若者感覚で、まず、高校生の話を聞くことからはじめられる点

ポイント④

興味がわかず、会場から立ち去る生徒にも、柔軟に対応できる体制をとっている点

ポイント⑤

話を聞くだけで終わるのではなく、「今日からできる約束」をして、まずどんな形でも良いので一歩を踏み出すことにしている点

ポイント⑥

「今日からできる約束」をした後、携帯電話で「掲示板」に報告することにより、アフターケアができる点

「NPO カタリバ」



東京都立足立東高等学校での実践例

「自分も悩んできたから、今の高校生に是非聞いてほしい。」「大学生になった今だからこそ、高校生の力になりたい」そんな思いで集まった大学生・専門学校生。ここには、先生の授業とは違った授業がある。「NPOカタリバ」が行う「カタリ場」という授業を見学させていただきました。（ポイント①）

ワークは4段階

- ワーク① グループ分け・アイスブレイキング・ワークシート(WS)チェック
- ワーク② サンプリング・相談コーナーで話を聞く、WSチェック
- ワーク③ 他のサンプリング・相談コーナーで話を聞く、WSチェック
- ワーク④ 感想まとめ、WSを基に話し合い進路を探る、小さな約束

サンプリングは、大学生・専門学校生自身が、高校生時代から現在までの思いや体験、これからの夢や進路など、高校生に伝えたいことを、紙芝居型・アルバム型等々工夫を凝らして語りかけます。（ポイント②）



相談コーナーでは、「何をしたいのかが、わからない」という生徒と対話形式で話し、その生徒が持っている可能性を引き出します。（ポイント③）

ポンプ役が会場を廻り、隅にたまっていたり、参加していない生徒に、積極的に話しかけ、その場で相談に乗ったり、他のコーナーに送り込んだりして場を盛り上げます。（ポイント④）

今日からできる約束を必ず書いてもらい、「電話をする」「会いに行く」「調べる」等々、「今日からできる約束」をします。その結果を、また、携帯電話で「カタリバ」のサイトにある掲示板に報告することになっています。掲示板を通じた高校生とのネットワークも今後、期待されています。（ポイント⑤・⑥）



「カタリバ」スタッフ

パソコンのメーリングリストを活用して、ネットワーク化をしています。現在、大学生を中心に専門学校生・社会人が400人近く登録しています。

新たなスタッフは、口コミで集まることが多いものの、ホームページにもスタッフ募集を出しています。

毎週土曜日に説明会を開いており、実施校が決まると、メーリングリストを通じて、協力できる人を募り、責任者・企画担当等の役割を決めて、企画を練っていきます。



星野喜代美校長の感想

生徒たちも前の日から「明日は大学生が来るでしょ」と楽しみにしていました。何より驚いたのは、普段見たこともない真剣さで授業を受けていたことです。そして、授業終了後、先生から指示されたわけではないのに、みんなで声を合わせて、カタリバのスタッフにお礼を言ったことです。これは、今までにはなかった変化です。

連絡先

〒106-0032 東京都港区六本木4-7-14
 みなとNPOハウス3階「NPOカタリバ」
<http://www.katariba.net/index.html>
 電話 03-5770-4025 メール hello@katariba.net